

種子産地強化計画

計画(変更)策定年月日	令和2年3月15日(令和4年10月12日)
市町村名	本庄市
計画主体名	埼玉ひびきの農業協同組合
計画主体代表者名	代表理事組合長 塩谷 和弘
住所(主たる事務所)	埼玉県本庄市早稲田の杜1-14-1
電話(主たる事務所)	0495-24-7721(営農販売課)

目 次

- 1 種子産地の現状と課題並びに将来方向
 - (1) 種子産地の面積及び戸数
 - (2) 産地の課題
 - (3) 若い種子生産者の育成・確保の考え方

- 2 当該種子産地における具体的な目標
 - (1) 種子生産者数
 - (2) 生産性の向上

- 3 目標実現のための方策

- 4 その他、目標達成のために特に留意する事項、方針

計画主体名(埼玉ひびきの農協)

1 種子産地の現状と課題並びに将来方向

(1)-1種子産地の面積及び戸数

1 本庄市採種部会

12名で構成し、うち認定農業者は9人である。

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち 認定農業者 (ha)	種子生産 農家戸数 (戸)	うち 認定農業者 (戸)
計画策定時 (元年度)	水稻	13.1	10.25	12	8
計画策定時 (元年度)	小麦	9	8.13	6	4

2 児玉地区ビール種子生産組合

2名で構成し、全員、認定農業者である。

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち 認定農業者 (ha)	種子生産 農家戸数 (戸)	うち 認定農業者 (戸)
計画策定時 (元年度)	ビール麦	5.5	5.5	2	2

3 上里町種子生産組合

組織は、88人で構成され、うち認定農業者は31人である。

小麦種子(さとのそら)の生産で県内需要の大半を担っている。

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち 認定農業者 (ha)	種子生産 農家戸数 (戸)	うち 認定農業者 (戸)
計画策定時 (元年度)	水稻	26.1	16.3	24	12
計画策定時 (元年度)	小麦	80.9	48.9	81	31

(1)-2種子産地の面積及び戸数 (変更計画)

1 本庄市採種部会

12名で構成し、うち認定農業者は8名である。

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち 認定農業者 (ha)	種子生産 農家戸数 (戸)	うち 認定農業者 (戸)
計画策定時 (4年度)	水稻	13.1	4.8	12	8
計画策定時 (4年度)	小麦	8.1	1.95	6	4

2 児玉地区ビール種子生産組合
2名で構成し、全員、認定農業者である。

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち		
			認定農業者 (ha)	種子生産 農家戸数 (戸)	認定農業者 (戸)
計画策定時 (4年度)	ビール麦	5.1	5.1	2	2

3 上里町種子生産組合
67名で構成し、うち認定農業者は27名である。
小麦種子(さとのそら)の生産で県内需要の大半を担っている。

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち		
			認定農業者 (ha)	種子生産 農家戸数 (戸)	認定農業者 (戸)
計画策定時 (4年度)	水稻	26.1	18.13	23	12
計画策定時 (4年度)	小麦	73.8	47.25	67	27

(2) - 1産地の課題

本庄) 生産者の高齢化が進展し、70代以上が全体の6割以上を占め、種子生産の維持・継続は、極めて困難な状況にある。今後、個別の配分面積を大幅に増やすことは、労力的にも容易でないため、種子産地の維持には、新たな担い手の確保が不可欠である。本庄地区では、採種面積の拡大を志向する人は約半数いるが、若い農業後継者は極めて少ない状況である。また、基盤整備が行われていない栗崎向田地域は、作業効率が劣るが、土地改良事業による基盤整備及び農地の集積が計画されている。

児玉) 乾燥、調製作業は個別で行うため、年次により品質格差がある。

上里) 小麦では既に2ha以上生産する一部の生産者により全体の半分近い面積が生産され、大規模化に伴い栽培管理が不十分な例がある。

(2) - 2産地の課題(変更計画)

本庄) 生産者の高齢化が進展し、生産者の12名の内、70代以上が9名を占め、今後、高齢化のため、種子生産の維持・継続は極めて困難な状況にある。一方、「彩のきずな」種子の需要増加に伴い、今後も増産が見込めるが個別の配分面積を大幅に増やすことは、労力的にも容易でないため、種子産地の維持には、新たな担い手の確保が不可欠である。

児玉) 乾燥、調製作業は個別で行うため、品質に個人差があるときがある。

上里) 農業者の高齢化は進展しているが生産意欲は高く増産には対応可能である。また認定農業者の多くは後継者がいるため今後5年程度はリタイヤする生産者の面積はカバーできると考えられる。米麦ともカントリーエレベーターを利用して各1品種に集約しており、製品ラインが増やせないため、品種数の増加は困難である。

(3) - 1若い種子生産者の育成・確保の考え方

本庄・上里) 新規担い手を含めた担い手に関するルールについて、それぞれの組合で策定し、面積配分、栽培技術の継承がスムーズに行えるようにする。
本庄) 地域内で新たな種子生産者の確保に努める。やむを得ず地域内に対象者がいない場合は、地区外を含め広域的に人材の確保し、技術的に問題がなければ新規参入を検討する。
上里) 組合員が種子生産をやめた場合は、同地区の後継者等に自らが行っていた採種面積・採種技術等を継承する。そのルールについては組合規約に定める。

(3) - 2若い種子生産者の育成・確保の考え方(変更計画)

本庄・上里) 新規担い手に関するルールについて、それぞれの組合で策定し、面積配分、栽培技術の継承がスムーズに行えるようにする。

2 当該産地における具体的な目標

(1) - 1種子生産者数

本庄	種子生産 農家戸数	うち、主たる 生産者が 20代の農家	30代の農家	40代の農家	50代の農家	60代以上の 農家
計画策定時 (元年度)	12	0	0	1	1	10
1年後 (2年度)	12	0	0	1	1	10
2年度 (3年度)	12	0	0	1	1	10
目標年度 (4年度)	12	0	0	1	1	10

児玉	種子生産 農家戸数	うち、主たる 生産者が 20代の農家	30代の農家	40代の農家	50代の農家	60代の農家
計画策定時 (元年度)	2	0	0	0	0	2
1年後 (2年度)	2	0	0	0	0	2
2年度 (3年度)	2	0	0	0	0	2
目標年度 (4年度)	2	0	0	0	0	2

上里	種子生産 農家戸数	うち、主たる 生産者が 20代の農家	30代の農家	40代の農家	50代の農家	60代以上の 農家
計画策定時 (元年度)	90	0	0	3	8	79
1年後 (2年度)	90	0	0	3	8	79
2年度 (3年度)	90	0	0	3	8	79
目標年度 (4年度)	90	0	0	3	8	79

(1)－2種子生産者数(変更計画)

本庄	種子生産 農家戸数	目 標				
		うち、主たる 生産者が 20代の農家	30代の農家	40代の農家	50代の農家	60代の農家
計画策定時 (4 年度)	12	0	0	1	1	10
1年後 (5 年度)	12	0	0	1	1	10
2年度 (6 年度)	12	0	0	1	1	10
目標年度 (7 年度)	12	0	0	1	1	10

児玉	種子生産 農家戸数	目 標				
		うち、主たる 生産者が 20代の農家	30代の農家	40代の農家	50代の農家	60代の農家
計画策定時 (4 年度)	2	0	0	0	0	2
1年後 (5 年度)	2	0	0	0	0	2
2年度 (6 年度)	2	0	0	0	0	2
目標年度 (7 年度)	2	0	0	0	0	2

上里	種子生産 農家戸数	目 標				
		うち、主たる 生産者が 20代の農家	30代の農家	40代の農家	50代の農家	60代の農家
計画策定時 (4 年度)	72	0	0	3	9	60
1年後 (5 年度)	72	0	0	3	7	62
2年度 (6 年度)	72	0	0	3	5	64
目標年度 (7 年度)	72	0	0	3	5	64

(2)－1生産性の向上

区 分	具体的な内容	目 標			
		計画策定時 (元年度)	1年後 (2年度)	2年後 (3年度)	目標年度
出荷・調製作業 の省力化	本庄地区の水 稲、小麦を上里 CEに集荷し一 元化する	本庄地区の一 元化試行	本庄地区の一 元化試行	本庄地区の生 荷受け試行	本庄地区の一 元化率100%
基本技術の励行 による品質向上	雑草対策、適期 管理及び病害虫 対策の徹底	種子合格率1 00%、計画数 量の確保	種子合格率1 00%、計画数 量の確保	種子合格率1 00%、計画数 量の確保	種子合格率1 00%、計画数 量の確保
基本技術の確認 とコンタミ・事故 の防止	GAPの考え方や チェックシートを 活用した改善活 動	S-GAP重要項 目の実践	出荷契約者 チェックシート 提出率100%	出荷契約者 チェックシート 提出率100%	出荷契約者 チェックシート 提出率100%

注:各項目の記載事項については、別記1の「2 当該産地における具体的な目標」を参照

(2)－2生産性の向上(変更計画)

区分	具体的な内容	数 値 目 標			
		計画策定時 (4年度)	1年後 (5 年度)	2年後 (6 年度)	目標年度 (7年度)
出荷・調整作業 の省力化	本庄地区」の 水稲、小麦を上里 CEに一元集荷 する	本庄地区一元 率100%	本庄地区一元 率100%	本庄地区一元 率100%	本庄地区一元 率100%
基本技術の遂行 による品質の向 上	雑草対策、適期 管理及び病虫対 策の徹底	種子合格率 100%、計画数 量の確保	種子合格率 100%、計画数 量の確保	種子合格率 100%、計画数 量の確保	種子合格率 100%、計画数 量の確保
事故の防止	チェックシートを 活用した改善活 動	出荷契約者 チェックシート 提出率100%	出荷契約者 チェックシート 提出率100%	出荷契約者 チェックシート 提出率100%	出荷契約者 チェックシート 提出率100%

注:各項目の記載事項については、別記1の「2 当該産地における具体的な目標」を参照

3-1目標を実現するための方策

全域	具 体 的 な 取 組 内 容		
	1年目(2年度)	2年目(3年度)	目標年度(4年度)
種子生産者 数	・新規生産者の発掘	・新規生産者の確保	・新規生産者の確保
生産性 向上	・水稲、麦の出荷一元化に よる省力化	・出荷一元化の定着による 個別生産面積の拡大	・出荷一元化の定着による 個別生産面積の拡大
	雑草対策、適期管理及び 病害虫対策の徹底	雑草対策、適期管理及び 病害虫対策の徹底	雑草対策、適期管理及び 病害虫対策の徹底
	・チェックシートを活用した 基本技術の徹底と事故防 止	・チェックシートを活用した 基本技術の徹底と事故防 止	・チェックシートを活用した 基本技術の徹底と事故防 止
その他	・フレコン出荷の定着	・本庄地区生荷受け試行	出荷体制の一元化
	・農地の集積推進	・農地の集積推進	・農地の集積推進

3-2目標を実現するための方策(変更計画)

全域	具 体 的 な 取 組 内 容		
	1年目(4 年度)	2年目(5 年度)	目標年度(6 年度)
種子生産者 数	・新規生産者の発掘	・新規生産者の確保	・新規生産者の確保
生産性 向上	・本庄地区」の水稲・小麦 を上里CEに一元集荷する	・出荷体制の一元化による 生産面積の拡大	・出荷体制の一元化による 生産面積の拡大
	・雑草対策・適期管理及び 病虫対策の徹底	・雑草対策・適期管理及び 病虫対策の徹底	・雑草対策・適期管理及び 病虫対策の徹底
	・チェックシートを活用した 改善活動	・チェックシートを活用した 改善活動	・チェックシートを活用した 改善活動
その他	・出荷体制の一元化	・出荷体制の一元化	・出荷体制の一元化
	・農地の集積	・農地の集積	・農地の集積

(参考)必要とする助成措置

導入予定年度	相手先	具体的な取組内容 (施設・機械名等)	規模・金額
2年度	JA埼玉ひびきの	ユニフローセパレーター	28,000,000円
4年度	JA埼玉ひびきの	自動口縫いミシン機 (A1・PB+CJ8600)	2,790,000円

4	留意している事項、方針	・種子生産に理解があり、栽培管理が丁寧で生産意欲の高い人材の確保に努める。
		・コントリーエレベーター等の集出荷施設が老朽化に伴い、修繕費が増大し負担が大きくなっているため、施設の再編整備が必要である。
		・交雑を防ぎ安定的に種子生産には、採種ほ場をできる限り集約することが必要である。そのため、中間管理事業や基盤整備事業により種子生産の担い手への農地集積を推進する。
		・採種事業は地域農業の基幹産業として農家所得向上・安定的な経営を図る。
		・種子の品質向上のため、採種部会主催の栽培講習会等を開催し、生産者の意識の向上や生産技術の高位平準化を推進し、種子の品質向上を図る。

注:種子産地の若返りを推進するに当たって、目標の実現のため産地として特に留意している事項等を記入する。

4-2その他、目標達成のために特に留意する事項、方針(変更計画)

4	留意している事項、方針	・良質な種子を生産することで稲・麦の品質及び生産性の向上を図り、農業経営の安定及び向上を図る。
		・種子の品質向上のため、採種部会の栽培講習会等を開催し、生産者の意識の向上や生産技術の高位平準化を推進する。
		・県内農業の生産基盤を支える優良品種の種子の安定供給を目指す。

注:種子産地の若返りを推進するに当たって、目標の実現のため産地として特に留意している事項等を記入する。